

WMSのフレームワークと EAIのウェブメソッドが提携

WMS (Warehouse Management System: 物流センター管理システム) 国内大手のフレームワークと、EAI (Enterprise Application Integration: 統合ソフトウェア) 世界最大手のウェブメソッドが六月十一日、提携を発表した。フレームワークは今後、同社のWMS「Logistics Station iWMS」と「ウェブメソッド統合プラットフォーム」を併用したグローバルSCMソリューションを提供していく。

EAIはタコ足コンセントのように複数の業務用アプリケーションソフトを連結させる役割を果たすミドルウェアで、近年急速に普及が進んでいる。これまでWMSを始めとする実行系ソフトとERPやレガシーシステムを接続するには、インターフェースの開発に多くの手間とコストがかかっていた。そこにEAIを活用することで、大幅なコスト削減とシステム導入期間の短縮が可能になるという。

提携発表の記者会見でフレームワークの田中純夫社長は「グローバルなビジネスを展開していく上で、システムの統合は最重要課題の一つ。両社の製品を組み合わせることで製品価値を高め、積極的に市場を開拓していきたい」と抱負を語った。

また、ウェブメソッドのデビッド・ミッチェル社長兼COO(最高執行責任者)は「日本は米国に次いで重要な市場だと認識している。WMSにおいて日本



フレームワークの田中純夫社長(右)とウェブメソッドのデビッド・ミッチェル社長

のリーディング・プロバイダーであるフレームワークとの提携は、日本企業としてはアジアの企業へのチャネルとなるだろう。今後も積極的なアプローチを展開していきたい」と話している。

ウェブメソッドは二〇〇一年一月に日本法人を設立。日本国内で製品開発、マーケティング活動などを行っている。同社がWMSベンダーと提携を結ぶのは欧米市場を含めても今回が初めて。両社は今後、展示会への出展やセミナーの開催、マーケティングなども共同で展開していく計画だという。

お問い合わせ先

株式会社フレームワークス

電話番号 〇五四(二八六)五四二一

ウェブメソッド株式会社

電話番号 〇三(六二二九)三七〇〇

「クライメート・セイバース」に佐川急便 国内初、運輸業としても世界初の参加

佐川急便はこのほど、WWF(世界自然保護基金)と「クライメート・セイバース・プログラム」の契約を交わしたと発表した。

「クライメート・セイバース・プログラム」は、WWFが全世界の企業に対して、温室効果ガスであるCO₂の排出量削減を呼びかけているプログラム。参加企業はCO₂排出量削減の目標値を設定し、自主的に削減対策に取り組む。現在、海外ではIBMやジョンソン&ジョンソン、ナイキなどが同プログラムに参加している。佐川急便は運輸業として世界初、また日本企業としても初の「クライメート・セイバース」参加企業となった。

今回の契約にあたり佐川急便は、二〇二二年度までに天然ガス車を約七〇〇台導入し、CO₂排出量を二〇二二年度対比で六%削減することを目標に掲げている。このプログラムの最大の特徴は、第三者機関が参加企業の掲げるCO₂排出量削減の目標値が追加的なものであるか検証・認証するところにある。企業の自主的な取り組みに透明性と信頼性を付加することが目的だ。今回の契約では、中央青山PWCサステナビリティ研究所が第三者機関となり、佐川急便が二〇二二年度に測定したCO₂排出量をもとに、目標値の前提となるベースラインを設定。五年後をめぐりに中間レビューを行い、CO₂排出量の削減率を検証していく。

佐川急便の辻尾敏明専務は、「環境問題に対する取り組みは当社にとって経営戦略上、非常に重要な位置を占めている。「クライメート・セイバース・プログラム」への参加は新たなビジネスへの発想にもつながるだろう」と意欲を見せる。

運輸業界においてCO₂排出量の削減は非常に難しいとされる。WWFは、主要なCO₂排出国である日本で世界初の運輸業界からの「クライメート・セイバース」が誕生したことに着目、世界の運輸業界を温暖化防止へと牽引する効果を期待している。



佐川急便の辻尾敏明専務(右)とWWFジャパンの日野迪夫事務局長

「ギガ」シリーズに新型ミツシヨ 同社比平均二五%の省燃費運転を実現 いすゞ自動車

いすゞ自動車は同社の大型トラック「ギガ」シリーズに省燃費運転を可能にするオートマチックトランスミッション「スムーサーG」を搭載した新型車両の販売を六月二日に開始した。

「スムーサーG」は、機械式のマニュアルトランスミッションをベースにしながらも、発進・変速・停止のシフトノックラッチ操作を完全自動化した十二段変速のフルオートマチックトランスミッション。発進時からクラッチ操作が不要で、変速、停止までアクセルとブレーキの二つのペダルだけで操作



「スムーサーG」を搭載した新型「ギガ」

することができる。もちろんスイッチ一つでマニュアルトランスミッションへの切り換えも可能だ。

新型車は「速度抑制装置取り付け義務化」の法規制に適合したスピードリミッターを標準装備。エンジンは低燃費でCO₂排出量の少ないインタークーラーターボエンジンに統一。無過給エンジンは廃止した。シャシやサスペンションのベーススベック、ブレーキなどにも手を加え、経済性のみならず走破成、信頼性、架装性および安全性も追求している。

同社では近年、燃費を始めとした経済性能の改善を目的に車両各部の改善を進めている。「スムーサーG」の開発もその一環。ドライバーの運転技量に左右されない、より効果的で確実な省燃費走行を狙っている。これらの改良によって新型車の燃費は同シリーズの旧モデルに比べ平均約二五%向上。新型車にマニュアルトランスミッションを搭載した場合に比べても十一%向上しているという。

価格は、二五トントラックのKL CYL5V4C一七一一万円、二〇トントラックのKL CXZ5K4C一三三〇万五〇〇円。

お問い合わせ先
いすゞ自動車株式会社
電話番号 〇三(五四七)一一八八

複雑な形状を一ミリ単位で計測 商品マスターの登録に威力を発揮 新光電子

自動計量測定機器など各種はかりのメーカー新光電子が、小物用寸法重量測定装置「パーツスキャンPS 450」を開発した。同製品は、半透明のビニールや卵のパックなど、従来の計量測定機器では測定が難しかった、複雑な形状をした小型商品向けの測定装置。コスト用ポーチやジューリ、乾電池パックに使用されるプリスターなど、さまざまな商品のマスター登録作業に威力を発揮する。

従来の小物用寸法計量測定機器は計測単位が五ミリだったのに対し、「パーツスキャンPS 450」は赤外線ビームを利用することによって一ミリ単位の測定を可能にした。測定範囲は、長さが一〇ミリ〜四五〇ミリ、幅一〇ミリ〜三四五ミリ、高さ三ミリ〜三四五ミリ。また、重さは四グラム〜一五キロまで、五キロ以下は二グラム単位、またそれ以上の製品は五グラム単位で表示することができる。

本体にはハンディバーコードリーダー、コンピュータおよび画像モニター用のインターフェイスがあり、測定した数値とバーコードで読みとった商品データをデータベース化することも可能だ。また、画像モニターに商品を読み取ったものをモニターングすれば、数値が商品のどの部



パーツスキャンPS 450

分を測定したものが特定することができる。

海外ではすでに十数社が導入している。国内ではソフトバンクの物流子会社であるソフトバンクフレームワークスや日本通運など、計五社が導入している。ソフトバンクフレームワークスでは、ウィンドウズ用ソフトのパッケージやコンピュータのマウスキーボード、チップなどの計測と、商品のマスター登録を目的に同製品を使用しているという。

本体の寸法は長さ九五五ミリ、幅七二五ミリ、高さ二一五〇ミリで、重さは約一八〇キロ。定価は二五〇万円となっている。

お問い合わせ先
新光電子株式会社
電話番号 〇三(三八三)一〇五一

「コンポーネント・ベスト・ビジネス」 阿保栄司監修の最新ビジネスモデル解説

サプライチェーンの統合化の時代はやがて終わる。固定化したサプライチェーンでは環境変化に対応できない。絶えず有利な構成にサプライチェーンを組み替えることのできる動態的ネットワーク、すなわち「パブリックネット」の時代がやってくる。ここでは「コンポーネント」というビジネスモデルの考え方が重要な力ギを握る。

そんな時代認識に基づいて、米国の経営コンサルタントが新しいビジネスモデルを解説したビジネス書が邦訳された。『コンポーネント・ベスト・ビジネス 経営とITとの新たなゲーム』（同友館）がそれだ。日本語版の監修はロジスティクス研究家の阿保栄司氏が務めている。

コンポーネントとはネットワークを構成する一つひとつの要素だ。今日の企業は他の企業と結びついて最終顧客に商品やサービスを提供している。全ての機能を一つの企業内で完結させることなく、もはやあり得ない。そのため他の企業とくいに効果的に結びつくことができるのが、重要な競争条件になっている。

しかも経営環境は常に変化している。かつては最高のパフォーマンスを発揮したサプライチェーンも環境が変われば競争力を失う。競争を勝ち残るには、環境変化に素早く反応して、最適なパートナー企業を選び直し、新しいネットワークを構築する必要がある。これまでの固定的なサプライチェーンに対し、新しい柔軟なネットワークはパブリックネットと呼ばれる。

パブリックネットの下で企業は一つのコンポーネントとして自立しながらも、他のコンポーネントと結びついている。そこでは電気コンセントのよう、プラグを差し込んだらすぐに立ち上がる、コンポーネント同士の接続性が問題になる。本書はそんなコンポーネント指向の考え方、実際の導入方法、そして課題と解決策を提示している。



『コンポーネント・ベスト・ビジネス』
経営とITとの新たなゲーム
著者：リチャード・ベイヤー
監修：阿保栄司、訳：島津信、松浦春樹
発行：同友館発行（税別定価二八〇〇円）

様々な物流計測ニーズに対応する 新光電子の物流計測機器

VIBRA®

貨物寸法重量測定装置

メジャーボーイ

貨物の寸法・重量を瞬時に測定、
信頼と耐久性で物流計測の標準機

- 貨物を搬送しながら迅速・高精度に自動計測
- 貨物が斜めに通過しても正確に測定する傾斜補正機能

小物品寸法重量測定装置

パーツスキャン

小物品や複雑な形状も高精度測定、
商品マスター登録や管理用途に最適

- ポリ袋やブリスター商品等の半透明品も正確に測定、大きさ10×10×3mm、重さ4gから測定可能
- 赤外線ビームで寸法最小表示1mm、ロードセルセンサで重量最小表示2gの高精度測定を実現



新光電子株式会社

本社 / 〒113-0034 東京都文京区湯島3-9-11 TEL:03-3831-1051 FAX:03-3831-9659
 東京営業部 / TEL:03-3831-1051 北関東駐在 / TEL:027-360-4502 関西営業部 / TEL:078-921-2551
 中部営業部 / TEL:0566-25-2026 [開発・製造] つくば事業所・関西事業所
 [ホームページ] <http://www.vibra.co.jp> [E-mail] sales@vibra.co.jp



ISO9001認証取得
JQA-2834つくば事業所